地域づくり表彰

塩尻Ｌａｂ（ラボ）（長野県塩尻市）

# 外からの人材と地域をつなぎ挑戦を生む

NPO 法人 MEGURU（ﾒｸﾞﾙ）
地域コーディネーター
保延（ほのべ）　祐希（ゆうき）



## 1　塩尻市の概要



（塩尻駅）

塩尻市は長野県の中央部に位置し、古くから人の往来・交流が盛んな交通の要衝として、新しい文化を受け入れながら、発展してきました。

市の強みである田園都市をさらに磨き上げ、地域課題の解決に挑戦したい市内外の人々がつながり、応援されることで、新たな価値を生み出し、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）、すなわち暮らしの質と幸福度の向上の実現を目指しています。

## 2 団体の概要



（MEGURU ビジョン図）

塩尻 Lab の企画・運営主体である NPO 法人 MEGURU（2020 年設立）は、「塩尻の人事部」を掲げ、「地域ぐるみで人の価値を高める」をミッションに、産官学金 11 団体と全国初となる「地域の人事部連携協定」を締結。その一環として、塩尻市と共に副業・兼業・プロボノを通じた関係人口創出事業等を推進しています。

## 3 活動開始の背景・経緯

人口減少に伴う地域の担い手不足を背景に、多様な人材とともに地域づくりを進めることを目的として、2019 年にマーケティングや HR の専門知識を有する地域外人材を自治体で活用したことが塩尻 Lab 誕生のきっかけです。

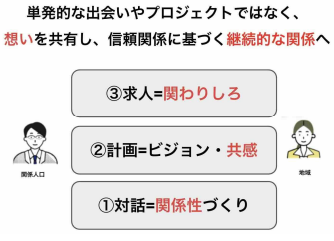
## 4 活動の内容




（塩尻 Lab 集合写真）

2020 年より毎年継続開催し、これまでに 20 名超の課題・テーマを持つ塩尻市民（テーマオーナー）と、延べ 120 名以上の関係人口が参加してきました。「ワイン」「耕作放棄地」「伝統工芸（木曽漆器）」など、特産品から地域課題まで幅広いテーマで地域資源の磨き上げや活用に取り組んできました。各テーマに共感したメンバーが集まり、1 テーマあたり、市民・関係人口 5~6 名でチームを編成し、プロジェクトに取り組みます。

## 5 創意工夫




（プログラム内容）

一時的なプロジェクト参加で終わらず、継続的関係性の構築へ発展させることを重視しています。そのための工夫は次の 3 点です。

【①対話】




（対話セッション）

解決策をいきなり議論せず、まずは対話を通じてテーマオーナーの考えを深く理解します。課題の背景や目的、動機に触れることで、テーマに対する理解が深まるだけでなく、参加者の共感が生まれやすくなります。

【②計画書づくり】



（計画書づくりの様子）

プロジェクトの目的や背景を理解した上で、「本当に解くべき課題」を議論します。1 泊 2 日の現地視察も実施し、課題の理解を深め、1 ヶ月のオンライン会議を踏まえて“課題解決の計画書”をアウトプットします。

【③求人化】




（求人募集の様子）

完成した計画書は、求人として公開し、課題解決の担い手を募り、さらなる仲間を集めていきます。

## 6 成果



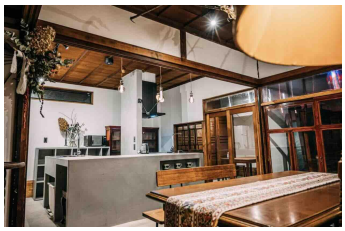

（ワインのプロジェクト）

ワインをテーマにした地域プロジェクトでは、テーマオーナーと関係人口が共創しながら、次々と価値創造を行っています。まずは、SNS を通じてワイナリーとファンをつなぐ「塩尻ワインサークル」が誕生しました。

そこから「駅で気軽にワインを楽しみたい」という声が生まれ、駅ナカのカフェ＆ワインバー「アイマニ」が開設され、また、消費者が生産側として関わる「コミュニティヴィンヤード」も始まり、ゼロから畑を育てる挑戦が進んでいます。

このような事例を通じ、関係人口は地域の「仲間」として定着していきました。市民もその存在を前提に動き出し、関係人口向けのシェアハウス 3 棟、ゲストハウス 2 棟が整備されるなど、交流と滞在の拠点づくりが進展しています。

【事例：(同)en.to】



（滞在型交流拠点 en.to）

中心市街地の滞在型交流拠点を運営する合同会社 en.to では、サービス開発段階から関係人口を巻き込み、出資金の約 4 割を関係人口から調達しました。

## 7 さらなる波及

塩尻の地域資源は、歴史的な背景のもと多様な人材と合流することに前向きな文化（文化・歴史資源、人的資源）であり、その土壌の上に新しいものを受け入れる組織やネットワーク（社会・組織的資源）です。

それらの資源を活かし、この流れを広げることで、地域内外の多様な人材が共創し、イノベーション創出が加速していくことに期待しています。多様な人材との協働は「越境学習」としての効果も期待でき、地域の人材育成、つまりは「人の価値を高める」につながっていくと考えています。